

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①各科の授業や探究学習(総合的な探究の時間/課題研究/介護総合演習)において、思考し自己決定し行動する活動に取り組んだと回答している生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自らが自己決定できる授業を職員研修等を通して検討し、実践する。 探究活動についても、生徒自らがテーマを決定し解決に向けて活動させる。 学校行事等への主体的・積極的・責任ある取組を促し、自己有用感を育む。 創意と活力のある部活動により、達成感・充実感を育む。 実社会での資格の評価を説明し有効性を説く。 入試や入学に際して優遇される点を具体的に認識させる。 合格に向けた指導や補習等を充実させ、粘り強く取り組ませる。 資格取得が進路の選択や実現につながることを理解させる。 担任や教科担当などと連携して動機づけに努める。 資格取得の指導体制を充実させる。 学科に関わる資格だけでなく、他の資格取得についても積極的に取得できるように指導する。 職業に関する国家資格取得の意義を理解させ、主体的に資格試験に挑戦するよう指導する。 Chromebookを用いた資料の提示やClassroomを活用して授業の質を向上させる。 実践的な内容となるよう学科内で意識を統一する。 対策補習については、動画を活用し生徒が自分の習熟度に応じて自ら教材を選び学べる体制を整える。 社会福祉・介護福祉検定の1～4級に段階的に取り組み、福祉の学びを深める。 介護福祉士国家試験受験資格を取得できる教育課程を設定し、福祉の学びを深め、卒業時に介護福祉士を取得できるよう指導する。 生徒の知識・技術の深化、コミュニケーション能力の向上が図られるよう事前準備、事後指導等を行い実践する。 					
		②授業以外の本校の教育活動(学校行事・部活・委員会等)に参加し、やりがいを感じたものがあると回答した生徒が80%以上である。						
	2 資格取得に積極的に取り組んでいますか。	③普通科では、基礎学力向上のため、各種資格・検定等の受検を積極的に呼びかけ、漢検および英検2級合格者10名、準2級合格者20名程度を目標とする。 ④生物生産科では、年間1つ以上の資格の取得を目指し、卒業までに3つ以上の資格を取得することを目標とする。 ⑤環境工学科では、1年生は年度内に資格を1つ以上取得する。2年生は測量士補と2級土木施工管理技術検定の合格者をそれぞれ40%以上とする。3年生は測量士の合格者を1名以上とし、測量士補と2級土木施工管理技術検定の両方を保有している者の割合を30%以上とする。 ⑥福祉科では、1年時より段階的に社会福祉・介護福祉検定に挑戦させ、1年生は3級、2年生は2級、3年生は1級合格を目標とする。3年生では介護福祉士国家試験(1月)に全生徒が合格できるようにする。						
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 地域の小・中学校や企業・団体と連携していますか。	⑦学科の特長を活かした体験実習、地域や関係諸機関、教育機関等との連携・交流活動を実施する。						
		⑧各学科における生徒の実態を踏まえて、到達度を見通すことができる学習指導を実施し、学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が65%以上である。						
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑨単位未修得者の割合は、全体の3%以下である。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に応じた授業展開やクラス編成を工夫する。 資格取得、検定、進学に対応した補習等を放課後や長期休業を利用して充実させる。 日頃から生徒の実態を把握し、学力の定着を図る。 学期毎に補習・追試験を実施する。 定期試験のみならず、課題・提出物・学習に向かう態度等により、生徒を多角的・多面的に評価する。 					
		⑩生徒に対する指導等の情報について、学年や学校全体で共有し、適切な指導ができていと認識している職員が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の指導に関する職員研修を定期的に実施する。 学年会議、生徒指導部会議、企画委員会、職員会議等で必要な生徒情報について共有できる機会を設ける。 					
	5 生徒はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑪いじめや学校生活の悩み、問題等を、学校の教職員等に伝えやすいと認識する生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケートを定期的に実施する。 計画的な二者面談や三者面談だけでなく、機会を捉えて積極的に面談を行う。 教育相談通信の配布、外部の相談窓口の紹介等、生徒および保護者に向けた情報発信を積極的に行う。 積極的にスクールカウンセラーにつなげる。 					
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑫定期検診の再検診対象で未受診の生徒が30%未満である(特に歯科と眼科)。視力や姿勢などの健康面を意識してスマホやクロームブックを活用している生徒が75%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> 将来にわたり健康な身体を維持する大切さを、保健委員活動や保健便りなどで伝える。 再受診の重要性と早期治療の有効性について、保健行事や三者面談で直接伝える。 昼食後の歯磨きや休み時間の目の体操などを紹介し、将来継続的に健康を維持する姿勢を意識つけるような生徒の活動を実施する。 					
		⑬学校での進路学習に対する高い満足度を持つ生徒の割合が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 各種検査の実施や目的を明確にした進路ガイダンスを学期ごとに開催する。 インターンシップ、オープンキャンパス、探究活動等の参加・体験を推奨する。 					
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	7 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑭進路希望を明確にして努力している生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> ポर्टフォリオへの取り組みやフォーサイト手帳を使った振り返り活動を充実させる。 各定期考査期間に家庭学習時間調査を行うことで進路実現に向けての学力向上を促す。 進路ガイダンスや進路通信、掲示物等を効果的に示すことで、最適な時期に最適な情報を伝えていく。 					
		⑮「学校の様子が分かる」と評価する保護者が80%以上となるよう、各学科の写真を新しくし、日頃の学校行事や各科の情報発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの写真を新しいものに更新して行く。 ホームページの更新を定期的に行い、学校の様子や生徒の活躍について保護者や地域に発信する。 情報発信のデジタル化を進める。 					
VI 教育デジタル化に努めていますか。	8 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑯LMS(スタディサプリやClassroom)を利用した授業や課題の発出を行っている教諭が75%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用した授業の事例を共有する。 利活用についての職員研修を実施する。 					
		⑰担当している授業や分掌等(部活動や外部との連絡・連携を含む)において、ICTを活用して業務改善に取り組んだと回答する職員の割合が75%以上かつ、本校がICTを「積極的に活用している」と回答する保護者が60%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した業務改善と方策のアイデアを出すように促す。 保護者に向けてICTの活用を意識した働きかけを行う。 					